

岡山県感染症週報 2012 年 第 4 週 (1 月 23 日～1 月 29 日)

岡山県は、『インフルエンザ警報』を発令中です。

◆2012 年 第 4 週 (1/23～1/29) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 1 週 2 類感染症 結核 2 名 (70 代 女 1 名、80 代 男 1 名)

第 3 週 2 類感染症 結核 2 名 (40 代 男 1 名、80 代 男 1 名)

5 類感染症 麻しん 2 名 (幼児 男 1 名・女 1 名) の報告がありました。

■定点把握感染症の発生状況

○インフルエンザは、県全体で 3,014 名 (定点あたり 35.88 人) の報告があり、前週より増加しました。

○インフルエンザウイルス B 型 (ビクトリア系統) が、今シーズン初めて県内で検出されました。

○感染性胃腸炎は、わずかに減少しました。

○集団かぜによる学年閉鎖が、岡山市の幼稚園でありました (1 月 23 日)。

【第 5 週 速報】

○インフルエンザとみられる臨時休業が、122 施設ありました (1 月 30 日～2 月 2 日まで)。

▽岡山市 46 ▽倉敷市 23 ▽備前地域 21 ▽備中地域 17 ▽備北地域 3 ▽真庭地域 1 ▽美作地域 11

○腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (20 代 女) の発生がありました。

1. **インフルエンザ**は、県全体で 3,014 名 (定点あたり 35.88 人) の報告があり、インフルエンザ警報が発令された前週 (定点あたり 33.18 人) より増加しました。岡山県は 1 月 26 日、県内に『[インフルエンザ警報](#)』を発令し、さらなる注意喚起を図っています。県全体の感染症発生レベルは 3、岡山市・倉敷市・備前地域・備中地域がレベル 3、備北地域・真庭地域・美作地域はレベル 2 になり県南部を中心に流行が拡大しました。県内の発生状況・臨時休業情報などは『[インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
全国の第 3 週 (1/9～1/15) 定点あたり報告数は、22.73 人で、前週 (7.33 人) より大きく増加しました。
2. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、県全体ではわずかに減少しました (定点あたり 9.09 → 8.59 人)。備前地域、備北地域、岡山市で患者が多くなりました。詳しい県内の発生状況は『[感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. **麻しん**が県内で報告されました。患者は幼児 2 名で、海外渡航歴があります。麻しんの県内の発生状況・症状などは『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★★	クラミジア肺炎		★

【記号の説明】

前週からの推移： 2 倍以上の減少 1.1～2 倍未満の減少 1.1 未満の増減

1.1～2 倍未満の増加 2 倍以上の増加

流行状況： 空白 発生なし ★僅か ★★少し ★★★やや多い ★★★★多い ★★★★★非常に多い

※定点当り患者数について、過去 5 年間の標準偏差値を 5 等分し、流行状況の目安として 5 段階で表示しています。

今週の注目感染症

麻疹

岡山県で麻疹患者2名の発生がありました。患者は幼児2名で、2名とも海外渡航歴があります。

WHO（世界保健機構）は、日本を含む西太平洋地域で2012年（平成24年）までに麻疹を排除することを目指しています。日本でも「麻疹に関する特定感染症予防指針」が策定され、2012年までに麻疹排除達成することを目標としています。

岡山県では、2008年2月「岡山県麻疹対策会議」を設置し、2012年までに県内での麻疹を排除し、その後も排除状態を維持することを目標に、麻疹ワクチン接種の推進や、麻疹の発生を確実に把握し、麻疹発生時には迅速に対応するなどの取り組みを進めています。

【岡山県の麻疹発生状況】

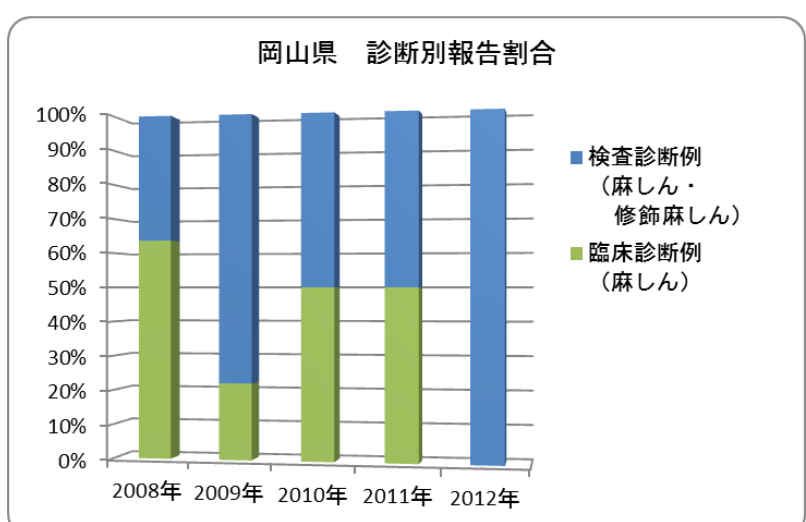
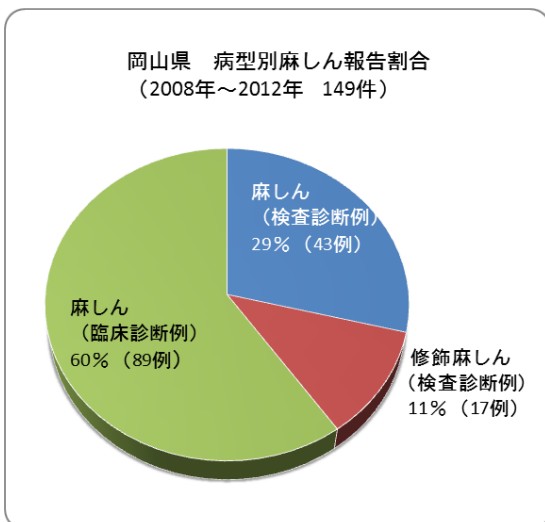
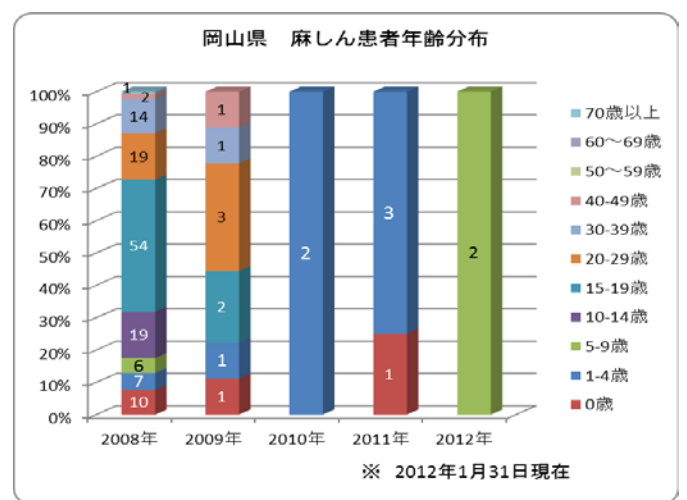
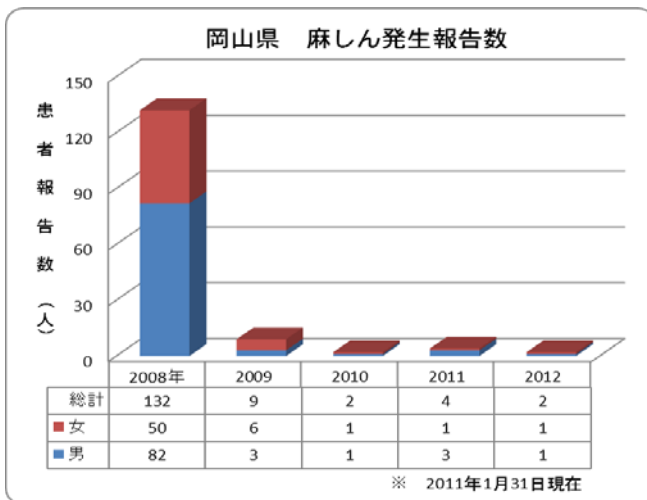
岡山県では、2008年132件の報告がありましたが、その後顕著に減少しています。

年齢別では、2008、2009年は各年齢で患者報告がありましたが、2010年以降は0～9歳の報告です。

全国の発生状況は2008年11,015人、2009年739人、2010年457人であり、年々減少しています。

県内の病型別麻疹報告数は、2008年は臨床診断例が多く報告されましたが、2009年麻疹の検査診断体制が整備されて以降は、検査診断に移行しています。

- [全国 麻疹発生状況（国立感染症情報センター）](#)
- [全国 週別麻疹患者報告数の推移（国立感染症情報センター）](#)



【岡山県 麻疹排除への取り組み】

岡山県は「麻疹ゼロ作戦」を推進し、「岡山県麻疹対策指針」を策定しています。

- [岡山県 麻疹対策（健康推進課ホームページ）](#)

【麻しんとは】

麻しんとは、麻しんウイルスによる急性熱性発しん性疾患です。

【症状】

< 前駆期（カタル期） >

感染後、10～12日間の潜伏期間ののち発症します。38℃前後の発熱が2～4日間つづき、体のだるさ、咳、鼻水、くしゃみ、結膜炎症状が現れ、熱が下降した頃に口腔の頬粘膜にコプリック斑（約1mm径の白色小斑点）が出現します。

< 発疹期 >

一度下降した熱が、再び半日くらいの内に高熱（39～40℃）になるとともに（二峰性発熱）、特有の発しんが耳後部、頸部、顔、体幹、上腕の順に、2日後には四肢末端にまで広がります。

< 回復期 >

発しん出現後解熱し、全身状態もよくなり、7～10日後には回復します。

通常、回復後に肺炎、脳炎といった重い合併症を発症することもありますので注意が必要です。

なお、この症状を十分満たさず、一部症状のみの麻しん（修飾麻しん）も見られることがあります。これは、ワクチンによる免疫が低下してきた人に見られることが多く、潜伏期が延長する、高熱が出ない、発熱期間が短い、コプリック斑が出現しない、発しんが手足だけで全身には出ないなどという症状です。感染力は弱いものの、周囲への感染源になりますので注意が必要です。

【感染経路】

感染経路としては空気感染のほか、飛沫感染や接触感染など様々な経路があります。感染力はきわめて強く麻しんの免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）。また、免疫のない人が感染すると90%以上が発症します。

感染力が最も強いのは発しん出現前のカタル期です。

【治療・予防】

特異的治療法はなく、対症療法が中心となります。

麻しん患者の1000人に1人の割合で脳炎が発症するといわれています。予防には、ワクチンが最も重要です。ワクチンを接種した人の95%以上は免疫を獲得するといわれています。

【麻しんの予防接種】

麻しんは予防接種で防げる病気です。定期予防接種の対象となる方はぜひ予防接種を受けましょう。

定期予防接種では、麻しん・風しんの混合ワクチン（MRワクチン）として接種します。詳しくは、お住まいの市町村の予防接種担当課へお問い合わせください。また、実際の接種に当たっては、医療機関にご相談下さい。

※中学1年生と、高校3年生に相当する年齢の人は、2008年4月から5年間新たに予防接種対象になりました。

第1期	生後12ヶ月から24ヶ月未満の間
第2期	5歳以上7歳未満の者で、小学校就学前の1年
第3期	中学校1年生に相当する年齢の者（年度内に13歳になる者）
第4期	高校3年生に相当する年齢の者（年度内に18歳になる者） ※今年度は、学校行事で海外へ行くなどの高校2年生相当の方も対象になります。

【医療機関のみなさまへ】

麻しん排除に向けた取り組みを進めるために、麻しんの正確な診断が一層重要となっており、麻しん患者と診断された患者検体の遺伝子検査を実施することが推奨されています。

医療機関におきましては、感染症法に基づく麻しん患者の発生の届出とあわせて、患者の発症早期の検体（咽頭ぬぐい液、血液、尿）の提出をお願いしています。

麻しんの遺伝子検査は、岡山県環境保健センターで実施しており、麻しん患者を診断した場合は、管内の保健所へご相談ください。

○[医師による麻しん届出ガイドライン 第三班（国立感染症研究所感染症情報センター）](#)

○[麻しんの検査診断について（厚生労働省）](#)

インフルエンザ情報 第 4 週 2012 年 1 月 23 日 ~ 1 月 29 日

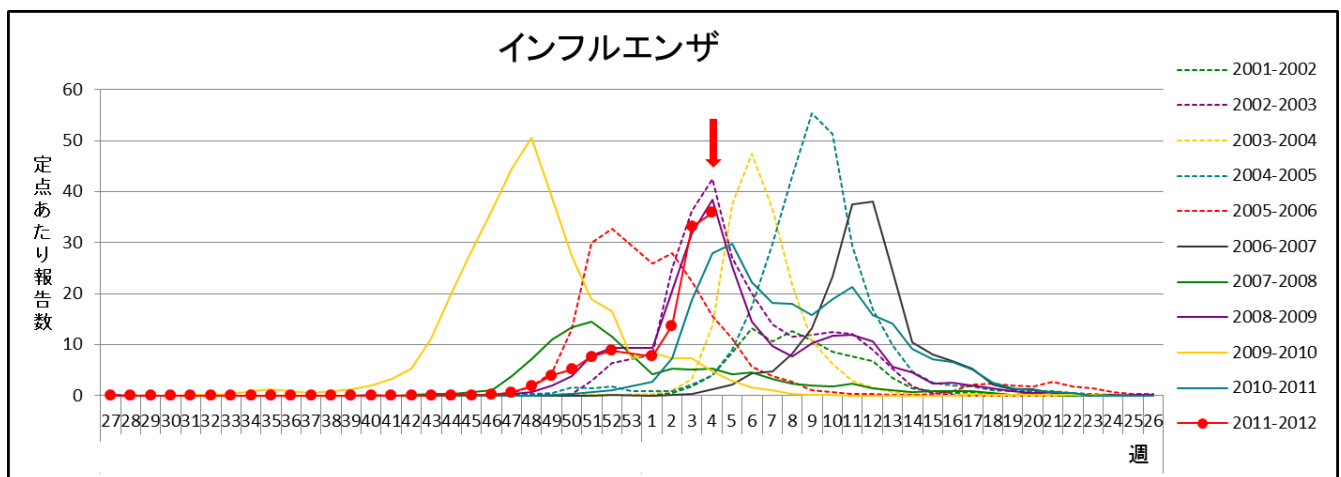
岡山県は、『インフルエンザ警報』を発令中です。

➤ 岡山県の流行状況

- 岡山県内の患者報告数は 3,014 名（定点あたり 35.88 人）となり、前週より増加しました。
- 県全体の感染症発生レベルは 3、地域別では岡山市・倉敷市・備前地域・備中地域がレベル 3、備北地域・真庭地域・美作地域がレベル 2 になり、県南部を中心にひきつづき流行が拡大しました。
- インフルエンザとみられる学校の臨時休業が、県内全域の 165 施設でありました。
- インフルエンザウイルス B 型（ビクトリア系統）が、今シーズン初めて県内で検出されました。
- インフルエンザによる入院患者 15 名の報告がありました。

【速報】第 5 週 インフルエンザとみられる臨時休業が 122 施設でありました。（1 月 30 日～2 月 2 日まで）

- ▽岡山市 46 ▽倉敷市 23 ▽赤磐市 8 ▽総社市 8 ▽玉野市 5 ▽笠岡市 4 ▽美作市 4 ▽和気町 4
- ▽津山市 3 ▽美咲町 3 ▽新見市 2 ▽早島町 2 ▽吉備中央町 2 ▽瀬戸内市 1 ▽浅口市 1 ▽井原市 1
- ▽高梁市 1 ▽矢掛町 1 ▽備前市 1 ▽真庭市 1 ▽奈義町 1



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザ患者数は 3,014 名（84 定点医療機関 定点あたり 35.88 人）となり、警報が発令された前週（2,787 名 定点あたり 33.18 人）より増加しました。岡山県は 1 月 26 日、県内に『インフルエンザ警報』を発令し、さらなる注意喚起を図っています。地域別では、倉敷市（49.56 人）、備中地域（46.00 人）、備前地域（36.93 人）、岡山市（31.55 人）、備北地域（29.83 人）、美作地域（19.30 人）、真庭地域（16.33 人）の報告があり、備中地域を除く県内ほとんどの地域で患者が増加し、県南部を中心にひきつづき流行が拡大しました。感染症発生レベルは、県全体ではレベル 3、岡山市・倉敷市・備前地域・備中地域がレベル 3、備北地域・真庭地域・美作地域がレベル 2 になり、レベル 2・レベル 3 の地域ともに拡大しました。

県内で検出されたインフルエンザウイルスは AH3 型が主流ですが、今週県内では初めて B 型（ビクトリア系統）が検出されました。

ひきつづき『外出後や食事前の手洗い・うがいを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠をとる。』など、感染予防に努めてください。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケット*を心がけましょう。

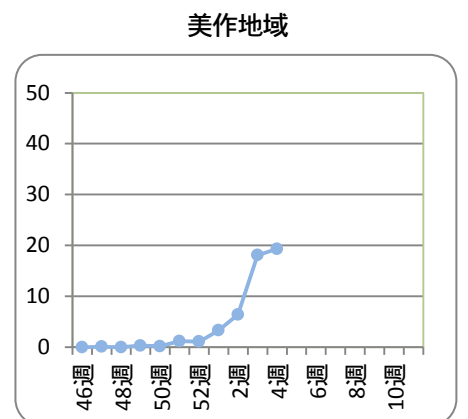
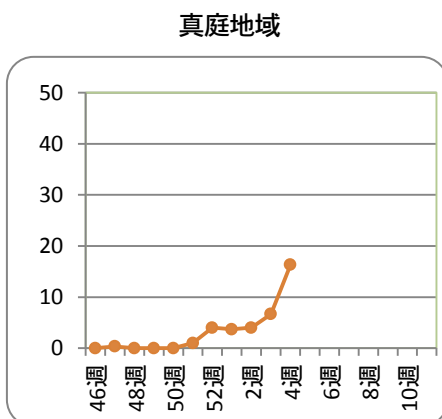
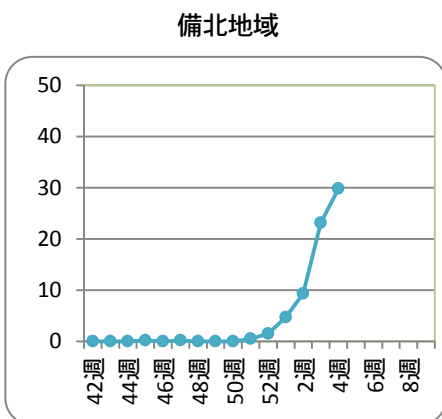
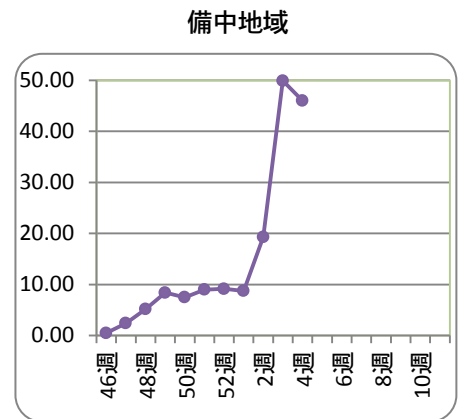
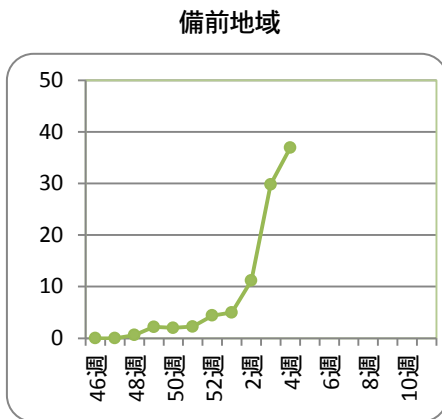
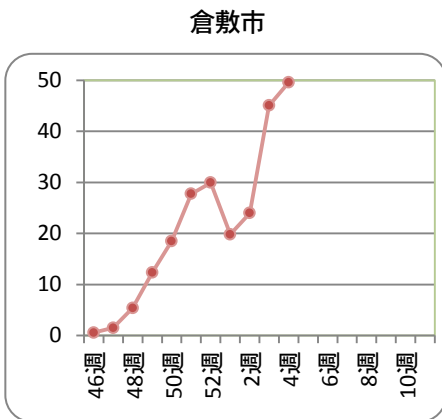
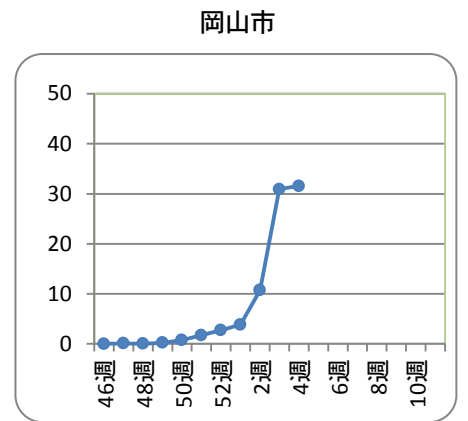
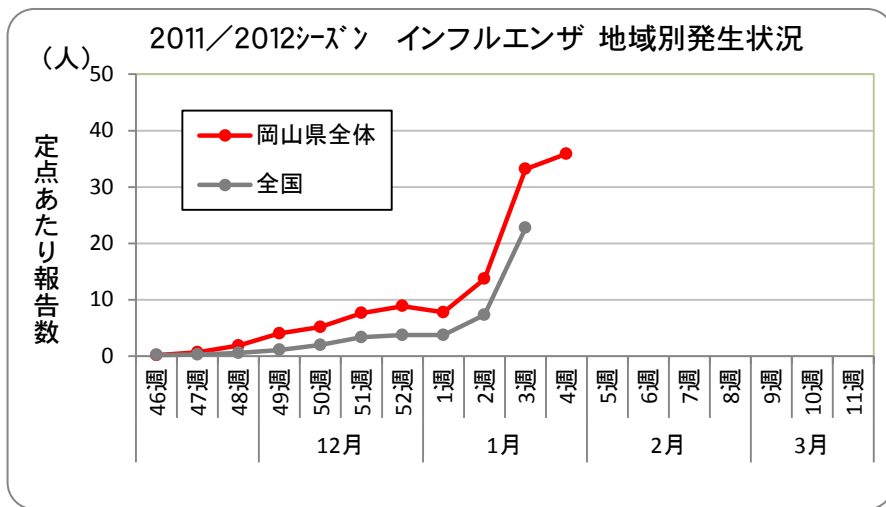
※咳エチケット：人に向かって咳やくしゃみをしないこと。とっさに咳やくしゃみが出そうなときは、周囲の人から顔をそらし、そで口で口をおおう、また用意があればティッシュなどで口・鼻をおおいます。咳やくしゃみが続くときはマスクの用意してください。

1. 地域別発生状況

第4週 (1/23~1/29) 前週からの推移 (単位: 人)

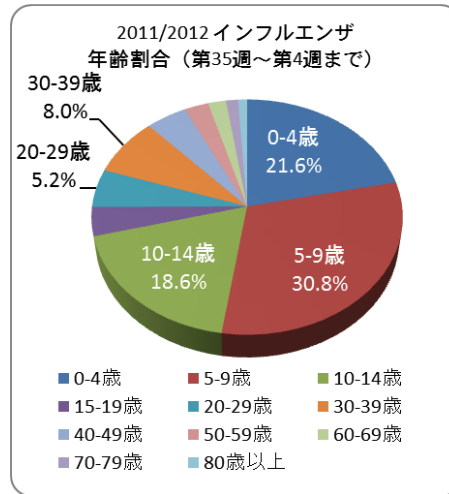
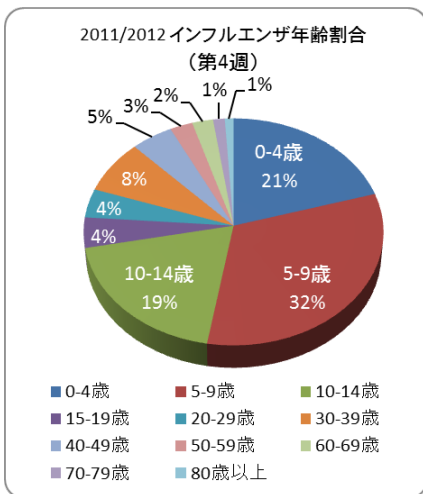
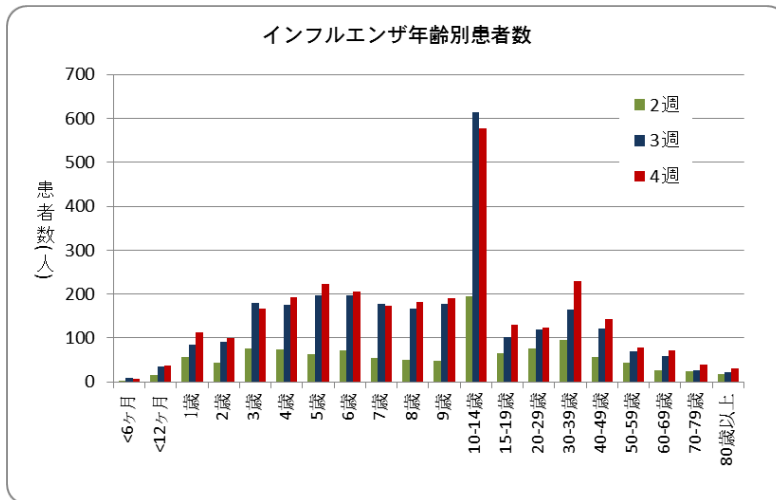
地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	3,014	➡	備 中	患者数	552	➡
	定点あたり	35.88			定点あたり	46.00	
岡山市	患者数	694	➡	備 北	患者数	179	➡
	定点あたり	31.55			定点あたり	29.83	
倉敷市	患者数	793	➡	真 庭	患者数	49	⬆
	定点あたり	49.56			定点あたり	16.33	
備 前	患者数	554	⬆	美 作	患者数	193	➡
	定点あたり	36.93			定点あたり	19.30	

【記号の説明】 前週からの推移: ↓ 2倍以上の減少 ⬇ 1.1~2倍未満の減少 ➡ 1.1未満の増減
 ⬆ 1.1~2倍未満の増加 ⬆ 2倍以上の増加



2. 年齢別患者発生状況 第4週（1/23～1/29）

第4週、患者の年齢割合は5-9歳が全体の32%で最も多く、0-4歳が21%、10-14歳が19%の順であり、幼稚園児・小学生・中学生に該当する年齢層が患者の多くを占めています。



➤ インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第4週（1/23～1/29）

学校等の臨時休業が165施設であり、県内全域から臨時休業の報告がありました。

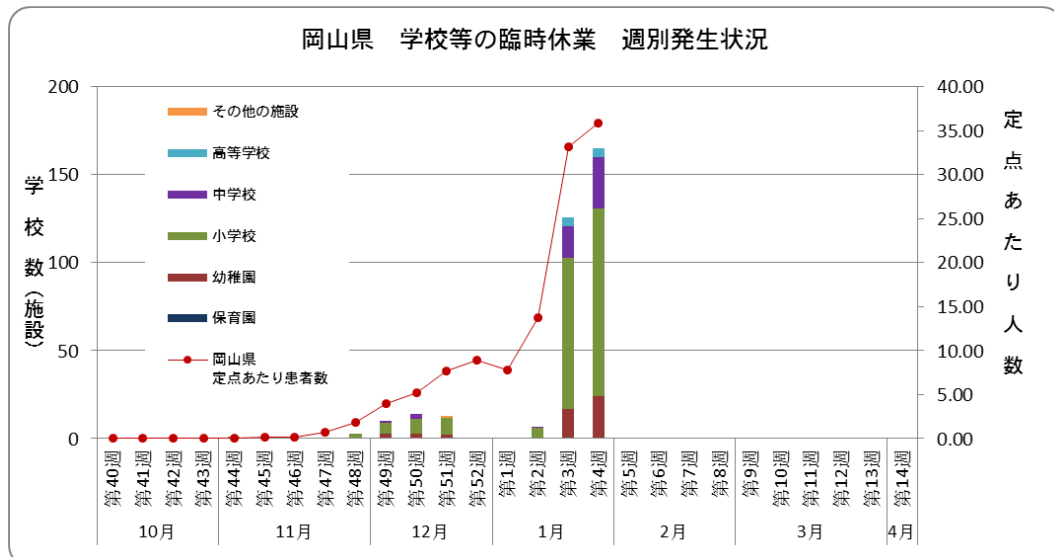
措置別：休園・休校 7施設、学年閉鎖 54施設、学級閉鎖 104施設

施設別：幼稚園 24施設、小学校 107施設、中学校 29施設、高等学校 5施設

有症者数は2,893名、うち欠席者数2,125名でした。

第4週までの合計は、有症者数5,942名、うち欠席者数4,349名、施設数はのべ339施設になりました。

[岡山県 インフルエンザとみられる臨時休業 \(健康推進課ホームページ\)](#)



1. 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

【第4週】

(第5週発生の臨時休業数の掲載は、第5週週報で行います。)

地域名*	有症者数		うち 欠席者数		施設数合計		休園・ 休校数		学年閉鎖 施設数		学級閉鎖 施設数		初発 年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	2,893	5,942	2,125	4,349	165	339	7	15	54	88	104	236	H23.10.31
岡山市	1,319	2,471	898	1,666	72	131	1	1	13	22	58	108	H23.12.15
倉敷市	489	1,583	394	1,176	23	75	1	2	6	11	16	62	H23.10.31
備前地域	361	528	307	448	20	36	1	2	11	15	8	19	H23.12.5
備中地域	398	810	337	681	30	60	3	6	14	23	13	31	H23.11.30
備北地域	125	178	58	109	7	13	0	1	2	4	5	8	H24.1.16
真庭地域	50	133	40	108	2	6	1	2	1	3	0	1	H24.1.13
美作地域	151	239	91	161	11	18	0	1	7	10	4	7	H24.1.16

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2. 臨時休業施設数の内訳 第4週 (1/23~1/29)

岡山市 : 幼稚園 10 小学校 43 中学校 19
 倉敷市 : 幼稚園 7 小学校 16
 備前地域 : 幼稚園 3 小学校 11 中学校 6
 備中地域 : 幼稚園 4 小学校 25 中学校 1
 備北地域 : 小学校 3 中学校 1 高等学校 3
 真庭地域 : 小学校 1 中学校 1
 美作地域 : 小学校 8 中学校 1 高等学校 2

第4週 : 165 施設

累計 : 339 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	24	49	107	227	29	52	5	10	—	1

【第5週 学校等の臨時休業 速報】(1/30~2/2 まで)

【措置別】

休校3施設 : 倉敷市1、赤磐市1、美作市1

学年閉鎖46施設 : 岡山市11、倉敷市5、備前市1、玉野市2、瀬戸内市1、赤磐市4、和気町3、吉備中央町2、総社市4、笠岡市2、井原市1、矢掛町1、新見市2、津山市3、美作市2、美咲町2

学級閉鎖73施設 : 岡山市35、倉敷市17、玉野市3、赤磐市3、和気町1、総社市4、笠岡市2、浅口市1、早島町2、高梁市1、真庭市1、美作市1、美咲町1、奈義町1

【施設別】 保育園 0 ▽幼稚園 22 ▽小学校 85 ▽中学校 12 ▽高等学校 3 ▽その他 0

【日付・地域別】

1月30日 ▽岡山市 : 26 ▽倉敷市 : 8 ▽備前地域 : 玉野市4、瀬戸内市1、赤磐市5
 (60施設) ▽備中地域 : 総社市3、笠岡市3、井原市1、浅口市1、矢掛町1 ▽備北地域 : 新見市1
 ▽真庭地域 : 真庭市1 ▽美作地域 : 津山市2、美作市1、美咲町2

1月31日 ▽岡山市 : 9 ▽倉敷市 : 8 ▽備前地域 : 赤磐市1、和気町2、吉備中央町1
 (29施設) ▽備中地域 : 総社市3、早島町2 ▽備北地域 : 高梁市1、新見市1 ▽美作地域 : 美咲町1

2月1日 ▽岡山市 : 5 ▽倉敷市 : 5 ▽備前地域 : 玉野市1、赤磐市1、和気町1、吉備中央町1
 (18施設) ▽備中地域 : 総社市1 笠岡市1 ▽美作地域 : 美作市1、奈義町1

2月2日 ▽岡山市 : 6 ▽倉敷市 : 2 ▽備前地域 : 備前市1、赤磐市1、和気町1 ▽備中地域 : 総社市1
 (15施設) ▽美作地域 : 津山市1、美作市2

➤ インフルエンザウイルス検出状況 【第4週（1/23～1/29）】

第4週に検出されたインフルエンザウイルスは、岡山市の散発事例5名からAH3型が検出されました。また、岡山市の散発事例1名からB型（ビクトリア系統）が今シーズン初めて県内で検出されました。

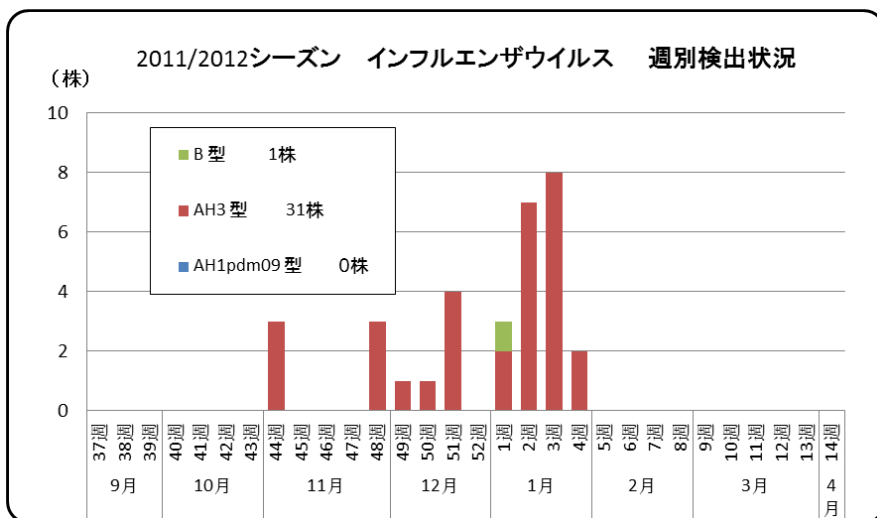
岡山県でこれまでに検出されたインフルエンザウイルスはAH3型が31株、B型が1株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型の割合が最も多く90.3%（984株）、B型が9.2%（101株）、AH1 pdm09型が0.5%（5株）の順になっています。AH3型が主流ですが、B型も徐々に増加しています。

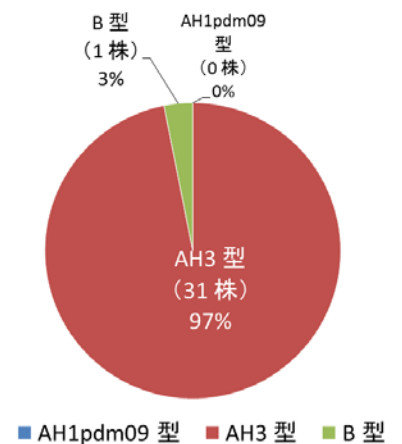
[\(国立感染症情報センター インフルエンザウイルス分離・検出速報 2011/2012シーズン\)](#)

(再掲)

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルス B 型	第1週	2012年1月7日	岡山市	小学生	女	ビクトリア系統
インフルエンザウイルス AH3 型	第3週	2012年1月19日	岡山市	30歳代	男	
インフルエンザウイルス AH3 型	第3週	2012年1月19日	岡山市	30歳代	女	
インフルエンザウイルス AH3 型	第3週	2012年1月20日	岡山市	中学生	女	
インフルエンザウイルス AH3 型	第4週	2012年1月23日	岡山市	30歳代	男	
インフルエンザウイルス AH3 型	第4週	2012年1月24日	岡山市	小学生	男	



2011/2012シーズン インフルエンザウイルス 型別検出割合 (n = 32)



➤ 入院時の状況と年齢別内訳の累計 第4週（1/23～1/29）まで

（ 県内基幹定点 5 医療機関による報告 ）

第4週、インフルエンザによる入院患者が15名（幼児8名、60代2名、70代2名、80代以上3名）報告されました。特に5歳以下の幼児と70歳以上の高齢者で入院患者が増加しています。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。

乳幼児ではまれに脳症を起こすことがあります。水分をとったあとすぐに吐いてしまい元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときはすぐに医療機関に相談しましょう。

【第4週 入院患者数】

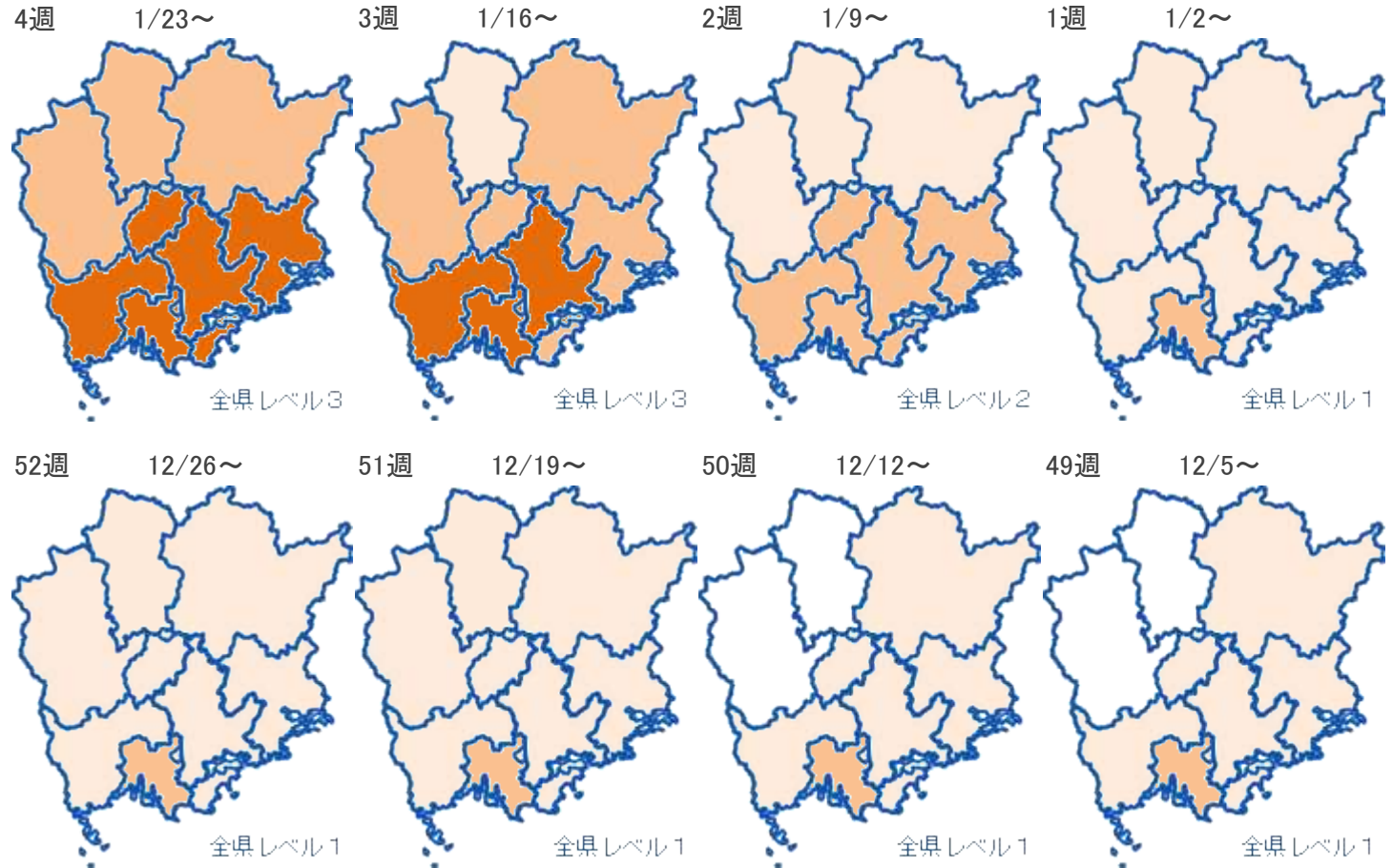
年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	2	5	1							2	2	3	15
ICU入室											1		1
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査 (予定含む)		1										1	2
頭部MRI検査 (予定含む)												1	1
脳波検査 (予定含む)		1										1	2
いずれにも該当せず	2	4	1							2	1	2	12

* 重複あり

【平成23年9月5日以降に入院した各患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	4	15	5	1	1		1			2	8	15	52
ICU入室											2		2
人工呼吸器の利用											1		1
頭部CT検査 (予定含む)		6	2		1						2	1	12
頭部MRI検査 (予定含む)		2									2	1	5
脳波検査 (予定含む)		5									2	1	8
いずれにも該当せず	4	7	3	1			1			2	4	14	36

* 重複あり



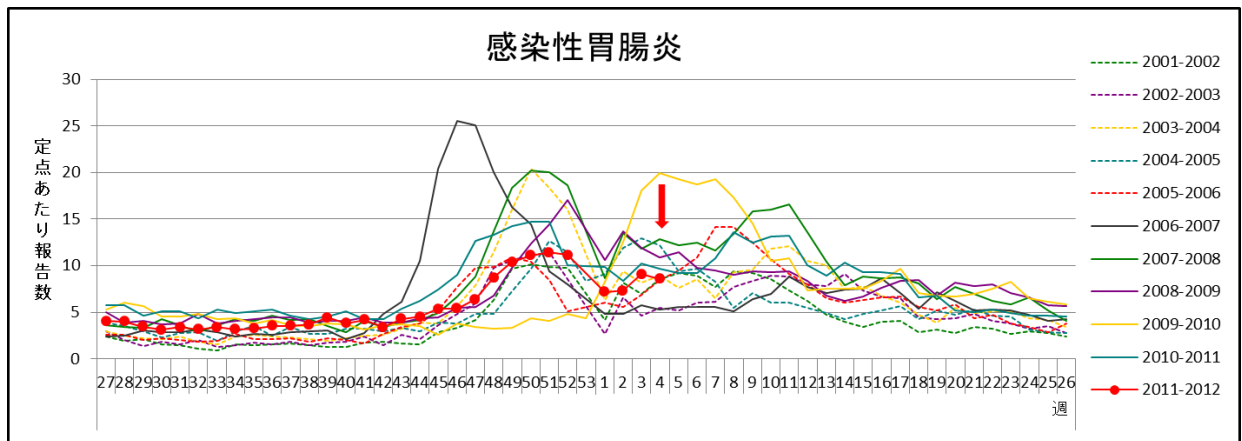
インフルエンザ

レベル3		レベル2		レベル1		報告なし	
開始基準値	終息基準値	基準値		基準値		基準値	
30	10	10 以上 30 未満		0 < 10 未満		0	

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。

感染性胃腸炎情報 第 4 週 2012 年 1 月 23 日～1 月 29 日

○岡山県内の患者報告数は 464 名（ 定点あたり 8.59 人 ）で、前週よりわずかに減少しました。

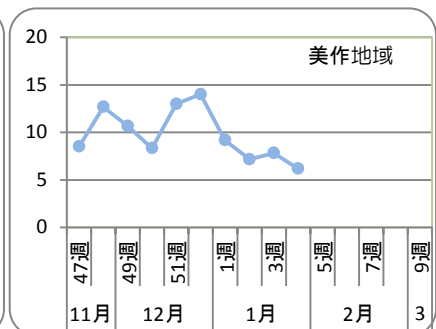
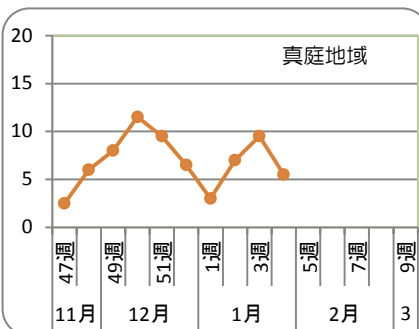
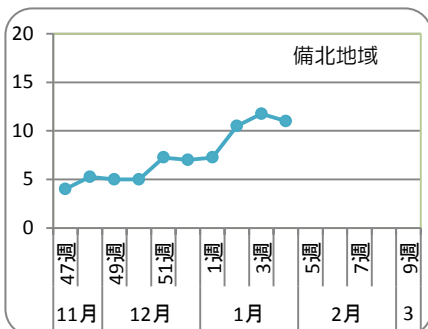
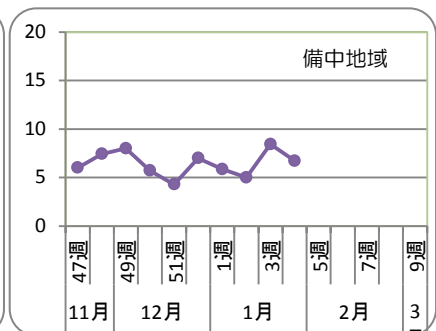
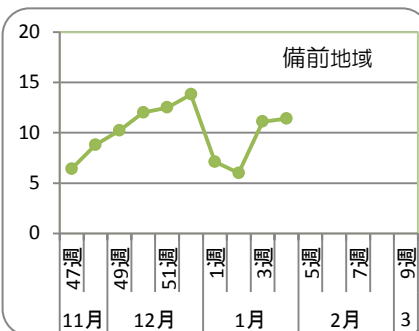
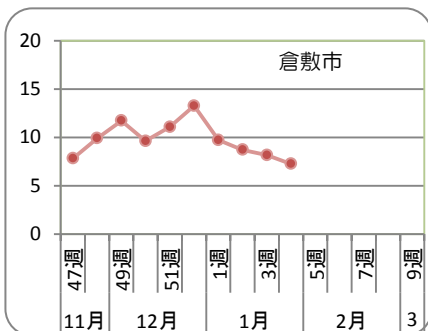
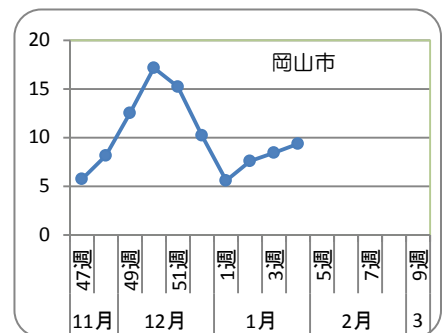
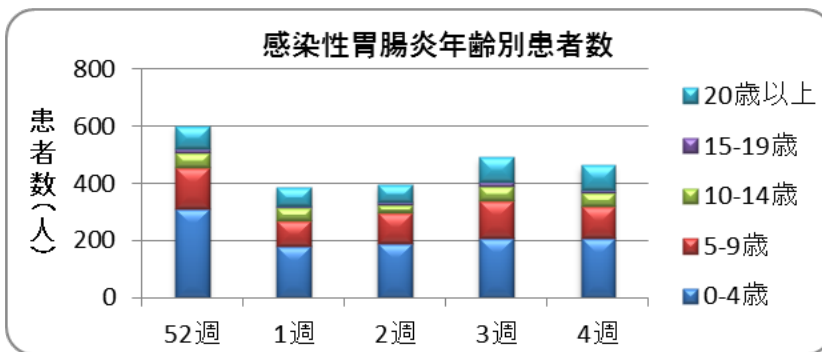


※感染性胃腸炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ～ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎の定点あたり患者数は、前週よりわずかに減少しました（ 54 定点医療機関 定点あたり 9.09 → 8.59 人）。地域別では、備前地域（ 11.40 人）、備北地域（ 11.00 人）、岡山市（ 9.36 人）で患者が多く発生しています。患者の年齢分布は 0-4 歳の低年齢層が約半数を占めており、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢により脱水症を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

冬の集団発生事例の原因はノロウイルスによるものが多いと言われています。岡山県では、今シーズンは現在までノロウイルスによる大規模な食中毒の発生はありませんが、『手洗いを励行する』、『食品は加熱して食べる』など感染予防を心がけましょう。

○ノロウイルス感染症とその対応・予防（厚生労働省） ・[家庭等一般の方々へ](#) ・[医療従事者・施設スタッフ用](#)



保健所別報告患者数 2012年 4週 (2012/01/23~2012/01/29)

2012年2月1日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	3014	35.88	694	31.55	793	49.56	554	36.93	552	46.00	179	29.83	49	16.33	193	19.30
RSウイルス感染症	16	0.30	12	0.86	2	0.18	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	0.13	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	0.59	7	0.50	8	0.73	-	-	7	1.00	-	-	1	0.50	9	1.50
感染性胃腸炎	464	8.59	131	9.36	80	7.27	114	11.40	47	6.71	44	11.00	11	5.50	37	6.17
水痘	57	1.06	18	1.29	21	1.91	3	0.30	12	1.71	1	0.25	-	-	2	0.33
手足口病	30	0.56	13	0.93	3	0.27	5	0.50	-	-	5	1.25	-	-	4	0.67
伝染性紅斑	14	0.26	4	0.29	7	0.64	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
突発性発疹	23	0.43	13	0.93	3	0.27	2	0.20	1	0.14	-	-	2	1.00	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	30	0.56	12	0.86	9	0.82	1	0.10	5	0.71	1	0.25	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	2	0.50	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	5	1.00	2	2.00	3	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 4週 (2012/01/23~2012/01/29)

2012年2月1日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	3014	35.88	694	31.55	793	49.56	554	36.93	552	46.00	179	29.83	49	16.33	193	19.30
咽頭結膜熱	7	0.13	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	0.59	7	0.50	8	0.73	-	-	7	1.00	-	-	1	0.50	9	1.50
感染性胃腸炎	464	8.59	131	9.36	80	7.27	114	11.40	47	6.71	44	11.00	11	5.50	37	6.17
水痘	57	1.06	18	1.29	21	1.91	3	0.30	12	1.71	1	0.25	-	-	2	0.33
手足口病	30	0.56	13	0.93	3	0.27	5	0.50	-	-	5	1.25	-	-	4	0.67
伝染性紅斑	14	0.26	4	0.29	7	0.64	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	30	0.56	12	0.86	9	0.82	1	0.10	5	0.71	1	0.25	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	2	0.50	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第4週 2012/01/23~2012/01/29)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	3014	6	38	113	99	166	193	223	206	173	181	190	578	130	124	230	144	78	72	40	30

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	16	6	3	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	-	2	1	1	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	-	-	-	1	5	4	8	-	3	-	6	4	-	1
感染性胃腸炎	464	8	28	72	50	21	30	36	24	23	16	10	49	11	86
水痘	57	-	2	20	12	6	9	2	1	1	1	1	1	-	1
手足口病	30	-	-	11	7	7	-	1	1	2	-	-	-	1	-
伝染性紅斑	14	-	1	1	1	3	3	2	-	1	1	-	-	-	1
突発性発疹	23	-	9	12	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	30	-	1	2	1	5	3	4	6	2	3	-	2	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	5	-	-	2	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

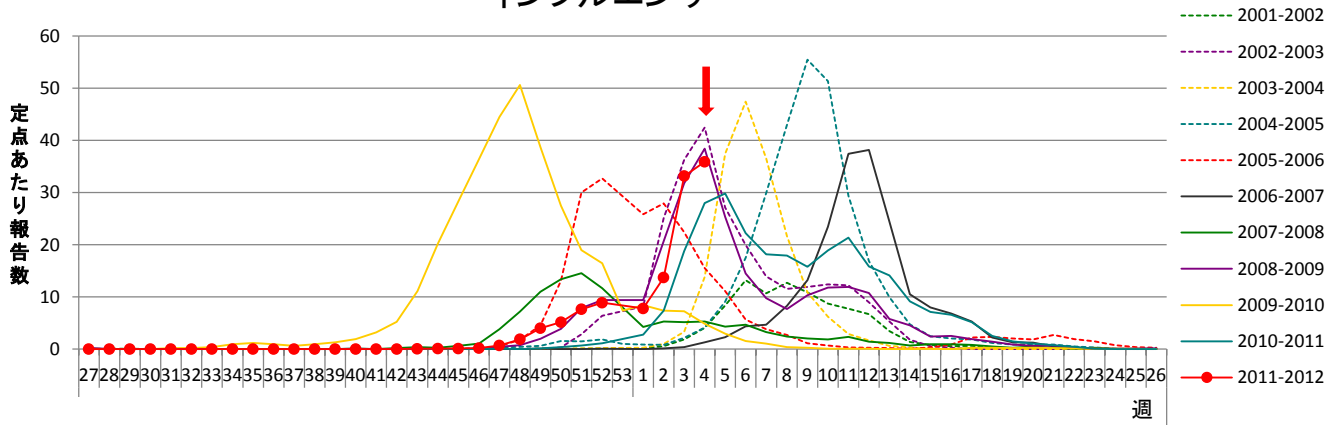
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

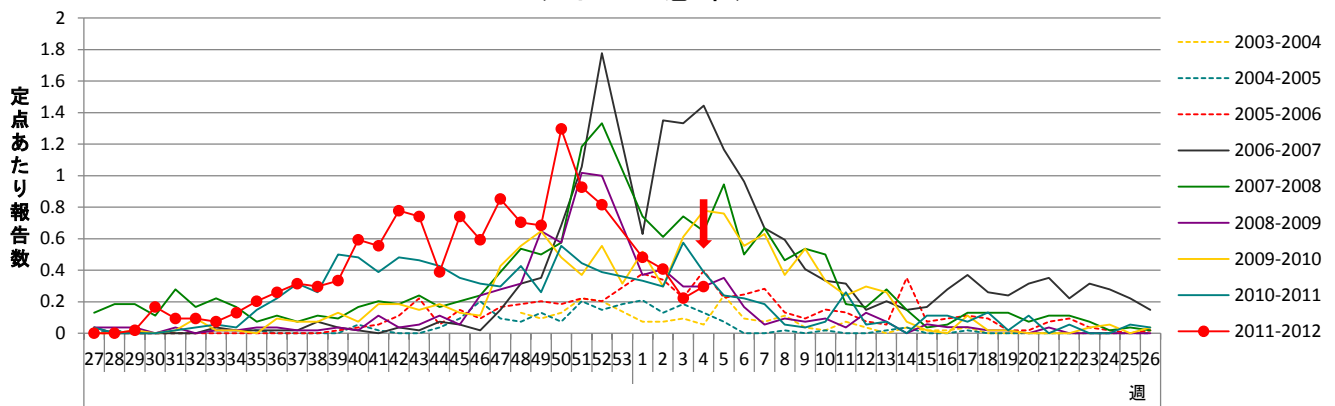
2012年 4週

分類	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011	疾病名	2012		2011
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	5	538	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	-	-	67
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	3
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	-	3	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	1
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	-	37	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	-	11	ウイルス性肝炎*3	-	-	9	急性脳炎*4	-	-	3
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	1	15	ジアルジア症	-	-	2	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	-	9	破傷風	-	-	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	風しん	-	-	1
	麻しん	-	2	4		-	-	-		-	-	-

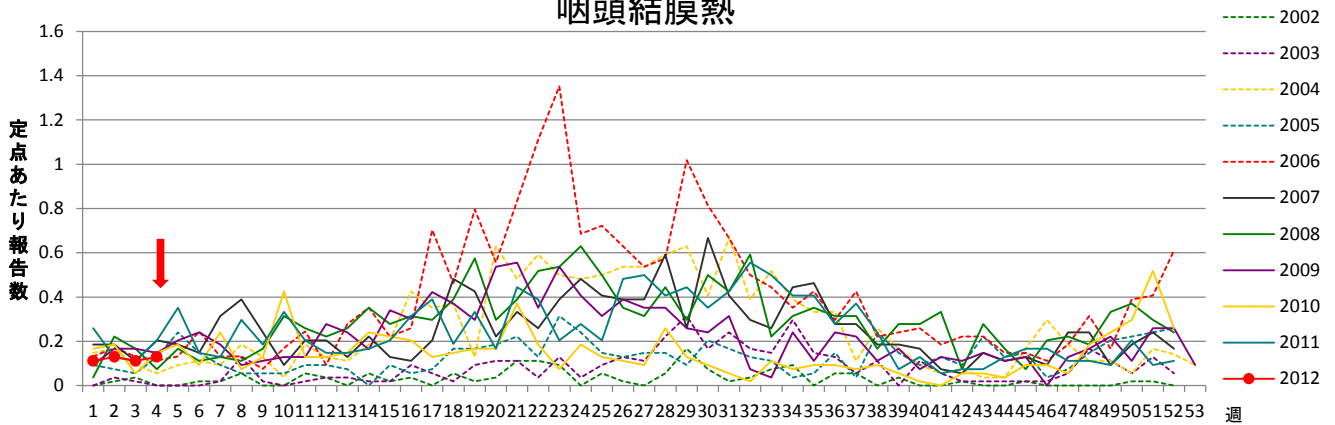
インフルエンザ



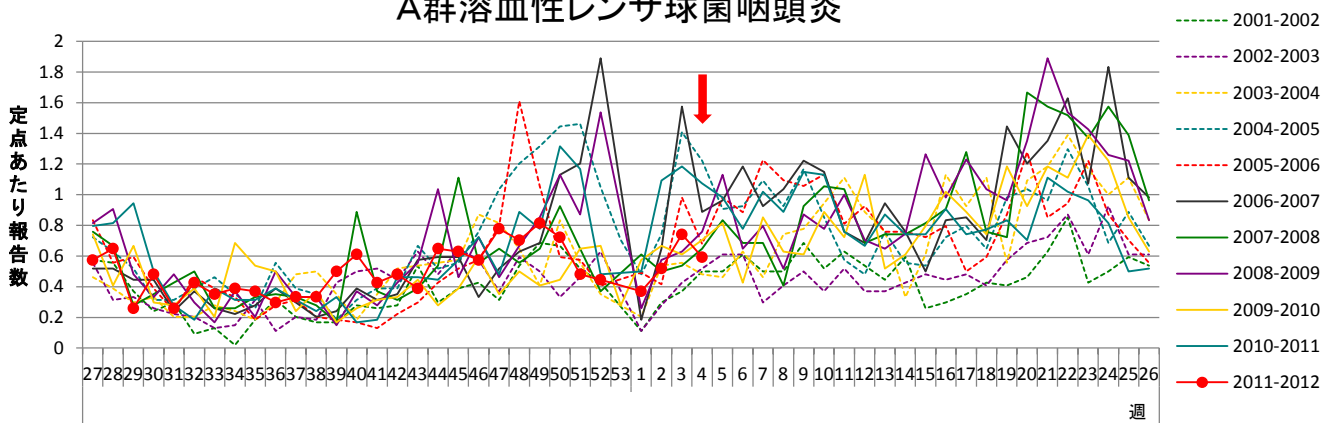
RSウイルス感染症



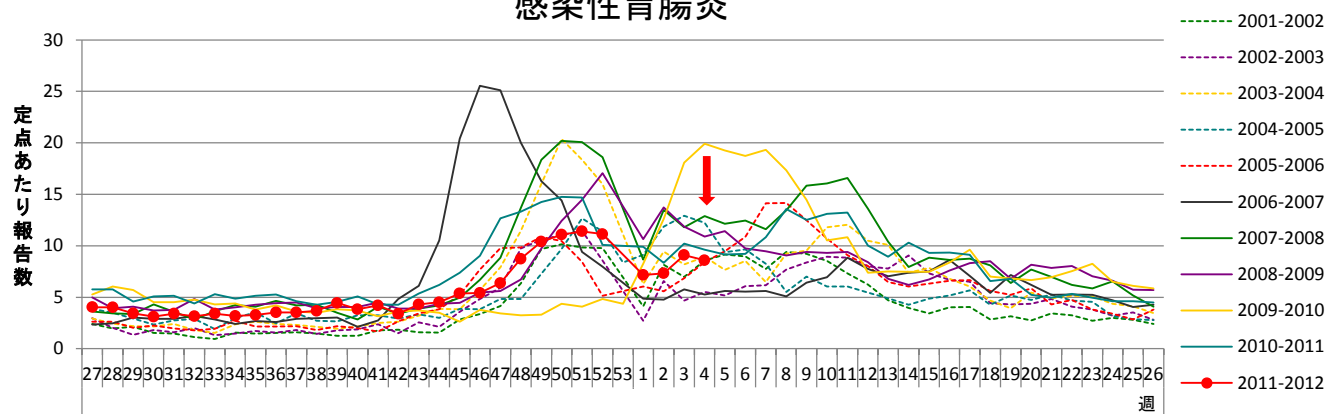
咽頭結膜熱



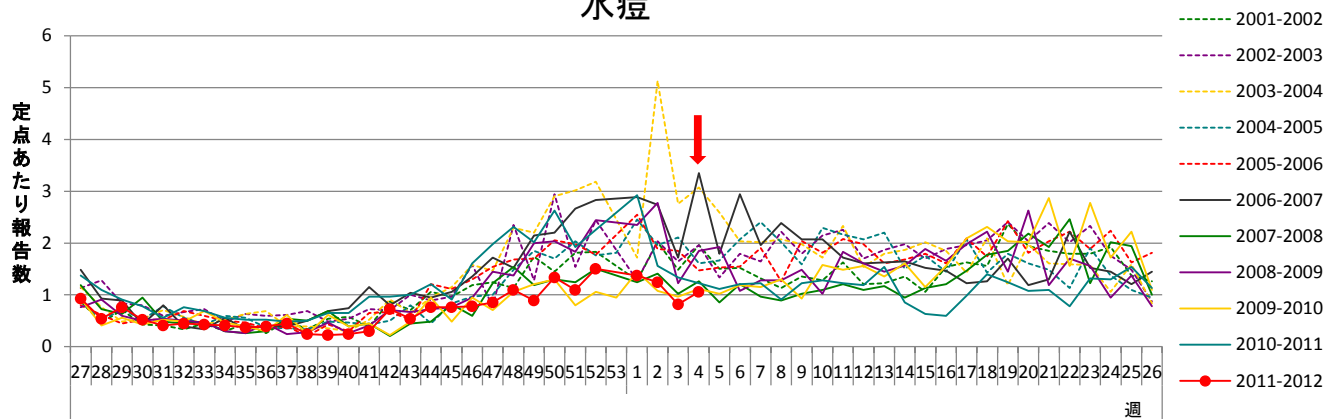
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



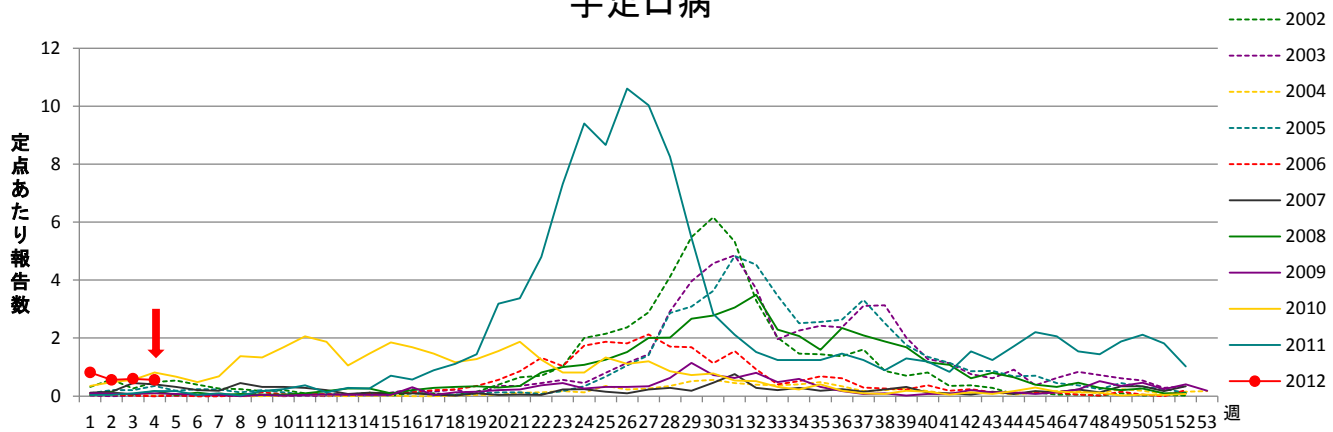
感染性胃腸炎



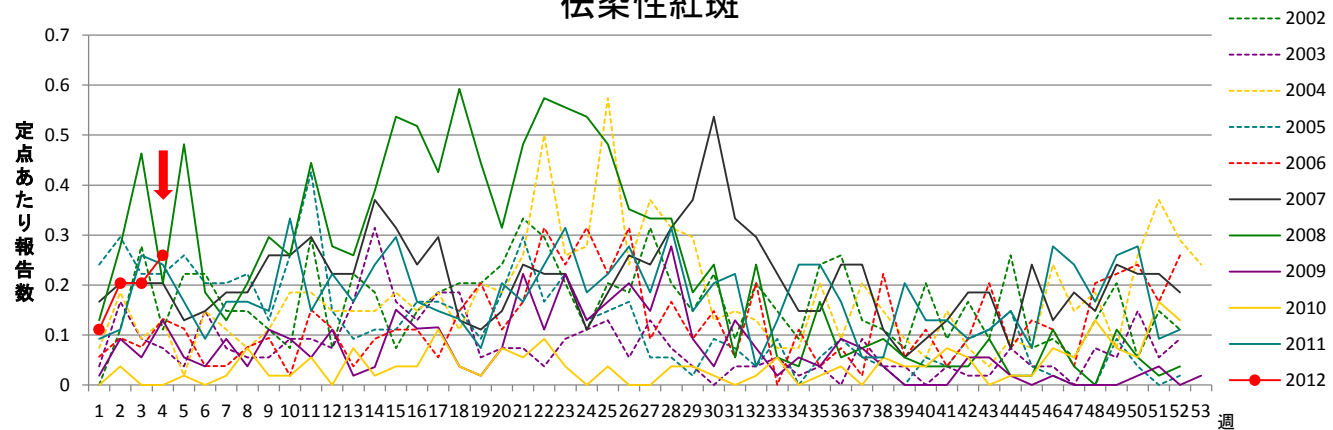
水痘



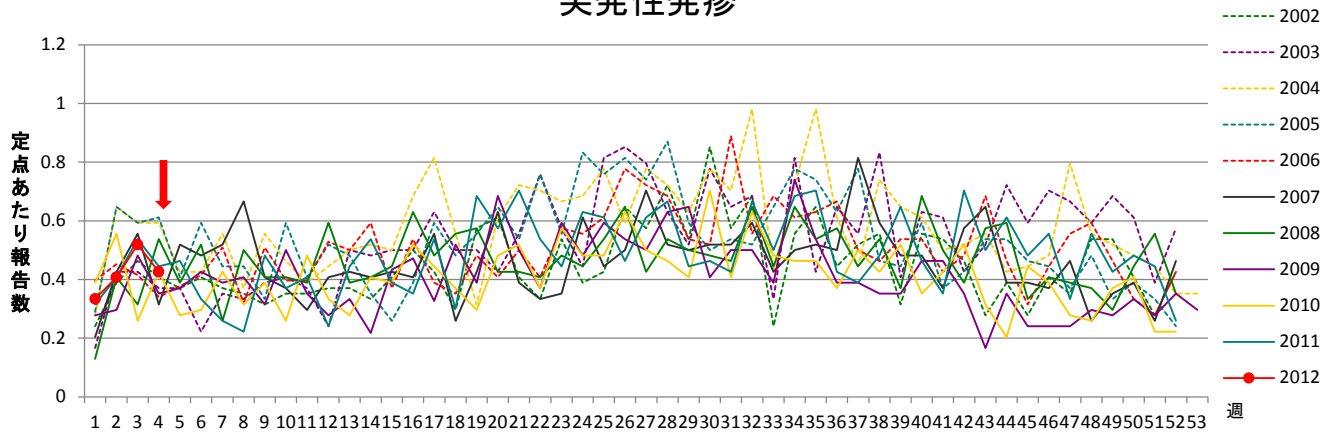
手足口病



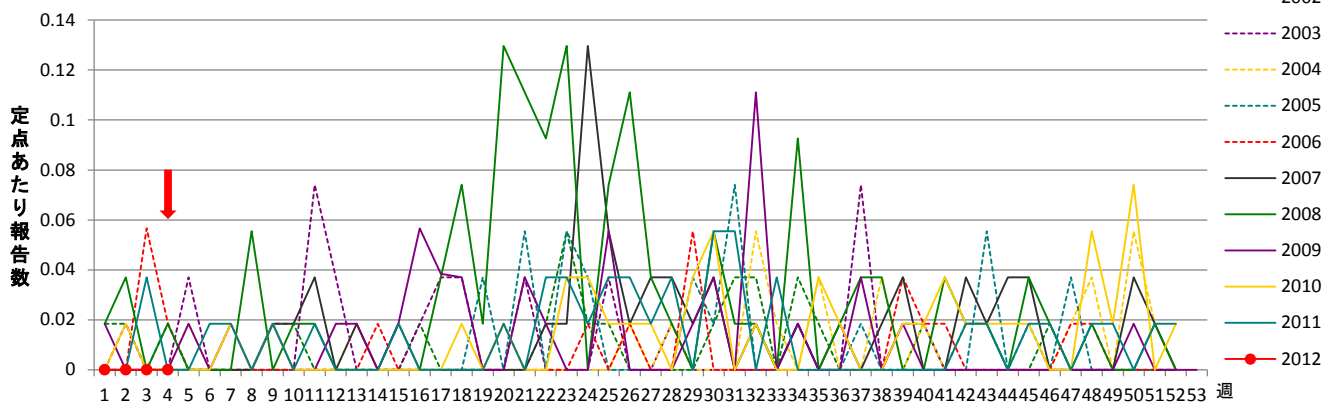
伝染性紅斑



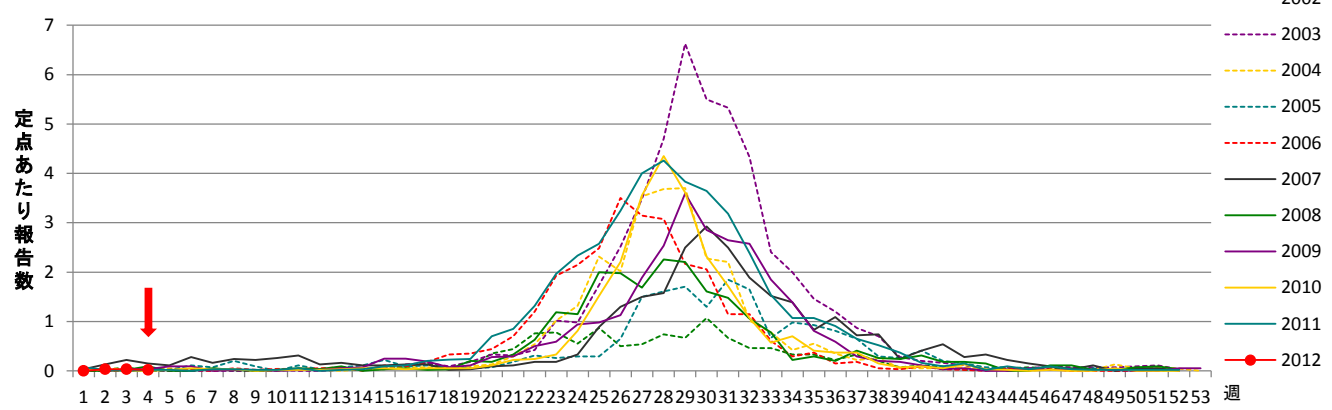
突発性発疹



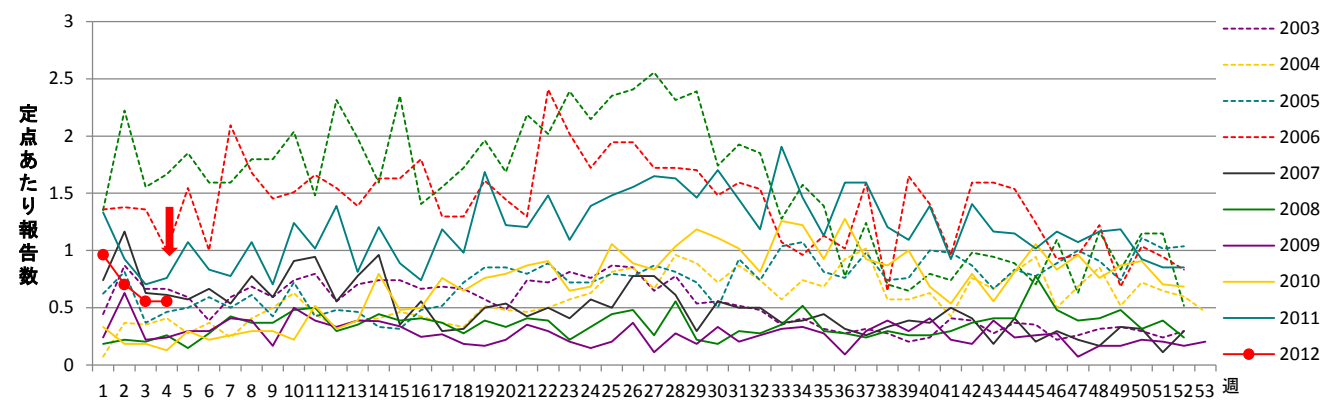
百日咳



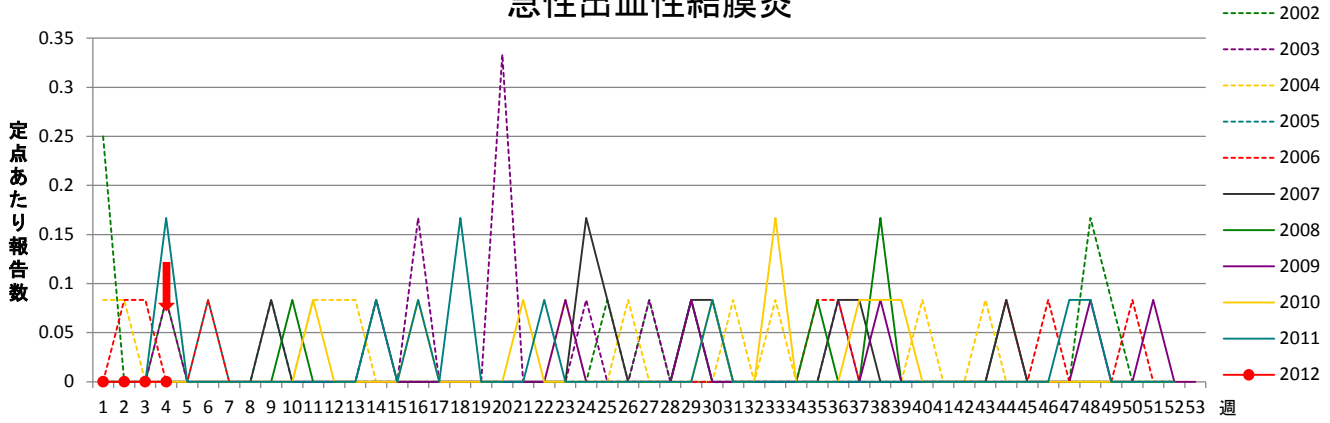
ヘルパンギーナ



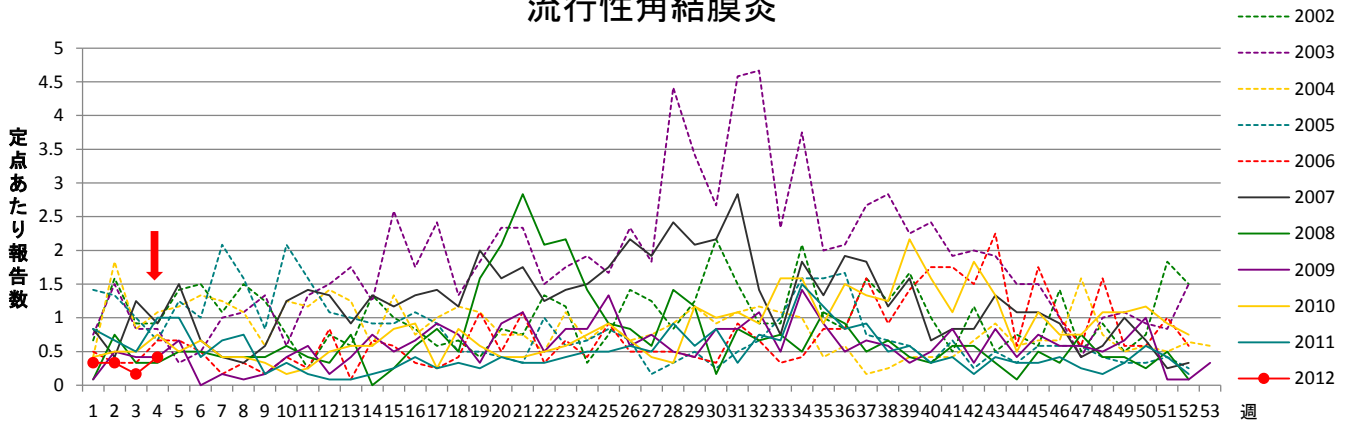
流行性耳下腺炎



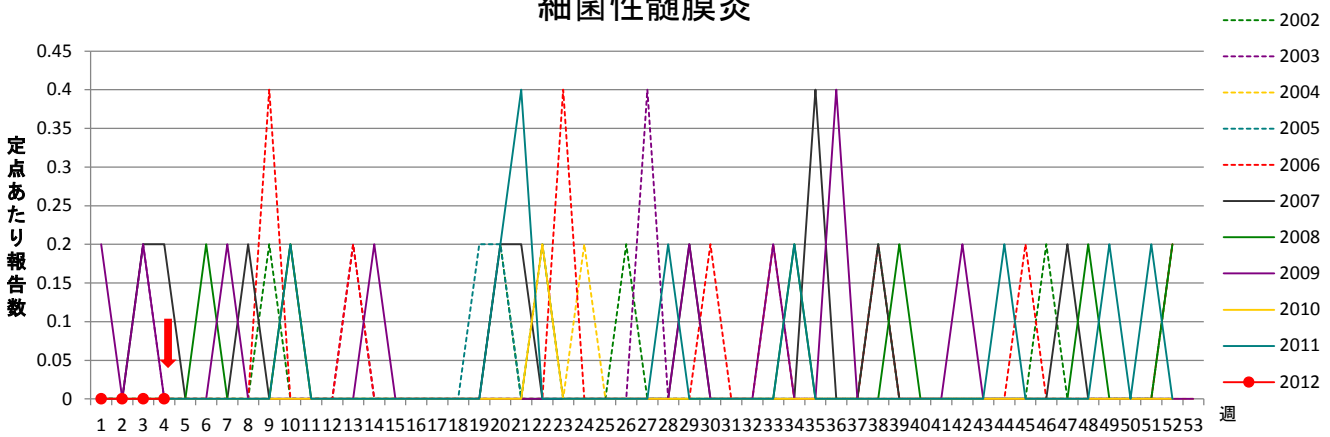
急性出血性結膜炎



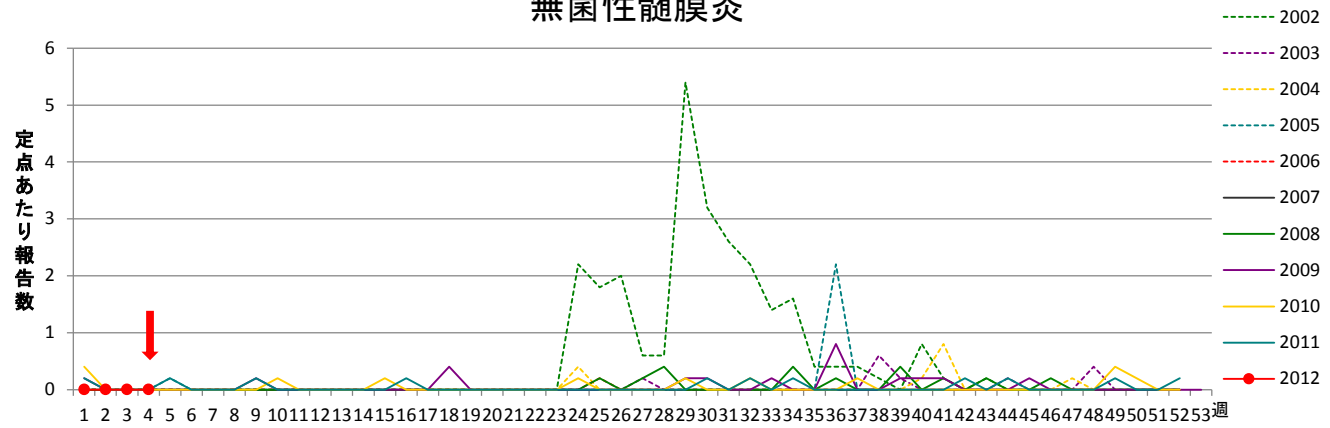
流行性角結膜炎



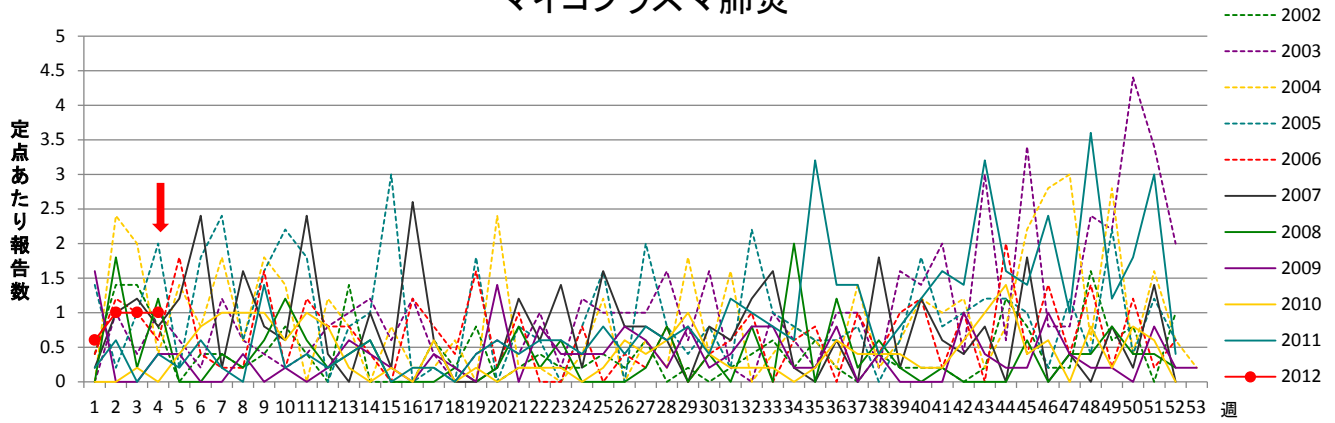
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

